

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年7月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070701331
法人名	医療法人 香林会
事業所名	グループホーム 螢の郷
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区香月西三丁目10-17 (電話) 093-618-8893
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年6月29日

## 【情報提供票より】(平成20年5月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	23 人
利用定員数計	18 人
常勤	14人, 非常勤 9人, 常勤換算 14.4人

### (2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有( ) 円	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (456,000円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年5月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.7 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	香月中央病院 うえの歯科医院 八幡厚生病院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

香月中央公園を目の当たりに自然と環境に恵まれたところにホームが立地している。居室の窓からは子供たちが遊ぶ姿などを眺める事ができ、和やかな気持ちになれる。開設後6年目を迎えたが、建物内部は清潔感を保ち、食堂、リビング、居室と一つひとつが十分な広さが確保されている。天窓からはやさしい光が差し込み明るい雰囲気である。敷地内には家庭菜園があり利用者が熱心に野菜を育て、季節ごとに収穫したものは調理に利用されている。管理者を含め職員は利用者の気持を尊重し、利用者の立場に立った対応ができ、利用者は落ち着いて明るい表情で生活されている。また、運営母体が医療法人であることから、介護、医療との連携や協力が期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は外部評価を行う目的や評価の結果に対しどのように活用していくかを理解し、前回評価の改善課題であった利用者の生活歴の把握、権利擁護の研修を行うなどそれぞれの課題の改善に向けて取り組む姿勢が伺えた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が自己評価や外部評価の意義を理解し、自己評価作成に参加している。管理者は職員各自の自己評価をまとめて作成し、評価結果については、内容を検討しながら評価を活かしたケアサービスに努めるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族の代表、民生委員、地域包括支援センターの職員の参加で2ヶ月に1回開催している。ホームの運営状況、事故報告、日々の活動報告が行われている。地域包括支援センター職員等からアドバイスをいただき、次の開催時に実践状況を報告している。議事録は家族全員に配布し情報の共有を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	面会時に、日頃の様子等を個別に報告している。健康状態に変化があり病院受診した際は、その都度家族に電話で報告している。ホーム便りは4ヶ月に1回程度家族の了解を得て作成しているが、今後は日頃の様子わかるよう毎月文章で伝えていきたいと検討中である。行政の苦情相談のポスターを掲示、ご意見箱の設置等苦情や意見が表せる取り組みがなされている。苦情処理をファイルされており、どう対処したのか取り組み等が記録され運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市民センターのバザーに参加、夏祭り、螢まつり、併設施設の催事(近隣小学生のコーラス)の見学をしたり、近隣の農家とお米の契約をするなど交流に努めているが、近隣に民家が少なく交流が浅い。そのため、公民館に赴き情報収集を行っている。利用者が地域に暮らすこと、グループホームの役割などさらに地域の方に理解していただくために、また、地域との交流が広がるよう職員、ホームの積極的な働きかけを期待したい。また、自治会、老人会へ未加入のため、地域の一員として、活動に参加できていない。ホームから地域に協力できることは何か検討され、積極的に情報発信等されることを期待したい。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体の医療法人による「往診を重視し、地域に医師や看護師は出て行かなければならない。地域に貢献出来るように」という理念のもと、事業所独自の「地域に密着したグループホームを目指す」との理念が確立されたが開所して6年を経過し、一歩踏み込んだ新しい理念にするため、担当者を決めてつくりあげている途中である。7月初旬には策定し、家族の親睦会で説明の予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有するために勉強会等で意識付けを図っている。重度化した利用者が多くホーム内で過ごすことが多くなってきているが、理念の実践に向け地域の中で暮らすことを忘れないようにという思いから、スーパーへの買い物、美容室に行くなど地域との接点を持つよう日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市民センターのバザーに参加、夏祭り、螢まつり、併設施設の催事(近隣小学生のコーラス)の見学をしたり、近隣の農家とお米の契約をするなど交流に努めているが、近隣に民家が少なく交流が浅い。	○	利用者が地域に暮らすこと、グループホームの役割などさらに地域の方に理解していただくために、また、地域との交流が広がるよう職員、ホームの積極的な働きかけを期待したい。また、自治会、老人会へ未加入のため、地域の一員として、活動に参加できていない。ホームから地域に協力できることは何か検討され、積極的に情報発信等されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は外部評価を行う目的や評価結果に対しどのように活用していくかを理解し、前回の外部評価の改善に取り組んだ。今回の自己評価は、職員全員で取り組み管理者がまとめた。外部評価や自己評価を通して日々改善に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族の代表、民生委員、地域包括支援センターの職員の参加で2ヶ月に1回開催している。ホームの運営状況、事故報告、日々の活動報告が行われている。地域包括支援センター職員等からアドバイスをいただき、次の開催時に実践状況を報告している。議事録は家族全員に配布し情報の共有を図っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	指定更新時に書類の見直し等でアドバイスを頂き改善した。今後も質の向上のため運営報告等行ったり情報収集にあたっていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はおられない。管理者、職員は制度に関する外部研修に参加し、参加できない職員へは伝達研修を行った。運営推進会議等で周知を図り、家族からの問い合わせに対応できるよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、日頃の様子等を個別に報告している。健康状態に変化があり病院受診した際は、その都度家族に電話で報告している。ホーム便りは4ヶ月に1回程度家族の了解を得て作成しているが、今後は日頃の様子が変わるよう毎月文章で伝えていきたいと検討中である。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の苦情相談のポスターを掲示、ご意見箱の設置等苦情や意見が表せる取り組みがなされている。苦情処理にはファイルで整理しており、どう対処したのか取り組み等が記録され運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の質の向上、色々な現場を経験してもらうために2年に1度法人内の異動がある。異動や離職により職員が交代する際は利用者にきちんと紹介し、引継ぎ期間を充分に取り新しい職員を覚えてもらうように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関し年齢、資格、性別の制限はない。職員は得意とする分野(レクリエーションなど)を活かし楽しく働くことができている反面、能力の伸び悩んでいる職員が多いことも管理者は把握している。職員がスキルアップのため研修等に参加する際は勤務の調整をするなど柔軟な対応ができ、個々の能力が発揮できるように努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修会に参加したり、内部研修を行い、職員等に対する人権教育、意識付けに取り組んでいる。常に利用者への言葉遣い接し方等に配慮したケアを行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は順番で参加しており参加できなかった職員には伝達研修が行われている。研修後得たものが実践できているか見直すことも必要と捉えており継続した研修ができる体制づくりに努めている。また、職員のレベルに合わせた育成計画までは作成されていないが先輩が後輩を指導するなどに対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し帳票等の書式の情報交換はあるものの具体的な交流はできていない。社会福祉協議会の介護サービス相談員が橋渡しをしてあげようと言われたことはあったが実現には至っていない。	○	事業所の質の確保のために、同業者との交流は重要である。ホームがある地域にはたくさんの同業者があり、ネットワークづくりや勉強会、職員を交えた相互訪問・見学等自らが発信源となり、サービスの質の向上に向けた取り組みに同業者同士で協働し、お互いが相乗効果となることを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が馴染みながらサービスを利用していただけるよう利用開始前に、自宅を訪問したり、ホームに体験入所していただいている。家族から生活歴、趣味などの情報を得てホームの生活に慣れよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「共に生活をする」という姿勢を持ち続け、一緒に食事づくりや味付けなど行ったり、ぬか漬けを教えていただいたりし、学んだり、支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常的な会話の中から、思いや希望を聞き取ることができ、会いたい友達がいるときなど希望に応じた対応が出来る。意思表示が困難な場合は表情や動作から意向や希望を汲み取ったり、家族に伺って本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日々の生活の中で課題の把握に努め、利用者、家族の意向を聞きながら担当者を中心に介護、医療面等必要な関係者で介護計画の原案を作成し、家族の了解を得て利用者本位の介護計画書を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しが出来ており、毎月、職員全員で勉強会を兼ねた利用者別にモニタリングを行うことで利用者の状態の変化や利用者、家族の要望に応じた介護計画を見直し、現状に即した計画作成が行えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を行っており、医療活用の強化がされている。かかりつけ医の受診も基本的には家族対応としているが困難なときはホームで対応し、受診結果を電話で報告している。外出、買物なども利用者の要望に応じた柔軟な支援が行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医の受診ができており、利用者、家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応している。母体の病院でも定期的に健康検診も行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族へ看取りの指針の説明を行い、同意を得ている。医療連携体制を行っており、主治医との連携を図りながら、ホームで、出来る限りの支援を行った経緯があったが、最終的には入院となった。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を重要視している姿勢が伺え利用者一人ひとりに合った注意や配慮がされている。毎月の職員勉強会で尊厳の再確認など意識付けの強化を図っている。個人ファイル等は職員だけが出入りする部屋で管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室での飲酒や利用者の希望に添った食事の時間など利用者一人ひとりのペースを優先し、無理強いのないケアをしている。できることは自分でしていただくよう促しや声かけを図り、選択肢を残す場面をつくるなど工夫し、そのひとらしく自己決定が図れるケアを行っている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に買物に行き、好みの食事が出来るように希望を聞いている。使い慣れた茶碗、湯のみ、箸を使用し調理から盛り付け、後片付けなど職員と一緒に楽しくおこなっており、同じ料理を同じテーブルで食事を楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間の入浴は職員の配置体制上困難なため提供していないが、夜間以外は利用者の希望に応じ柔軟に対応し、一人ずつゆったりとした気持ちで入浴を楽しめるように配慮がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が育てた野菜が食事に取り入れられ、育てる楽しみを味わっている。書道を得意とする利用者の作品がホームの玄関や居間に飾っており、暮らしの中においてそれぞれ得意な分野で役割を發揮している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的にホーム以外での食事会やバスハイクなども行われており、利用者の希望に応じた買物や散歩などの外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の入り口には鍵は取り付けておらず、日中は窓の鍵もかけていない。玄関も日中は施錠せず、チャイムで対応している。21時から翌朝6時30までは防犯上施錠している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、6月・12月に地域の消防団の協力を得て災害訓練が行われている。災害対応のマニュアルを整備しており、夜間を想定した訓練が行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士に利用者の状態に応じた調理方法など相談を行い、対応している。主食、副食の摂取量のチェックや水分の摂取量にもチェック表を作成し、利用者の食事量の把握を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は引き戸になっており、廊下、リビングと十分な広さがあり、明るく、開放感がある。居間が和室になっており、利用者がゆっくりとくつろげるように配慮がされており、ホーム全体が家庭的で、利用者も落ち着いた表情である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全居室、十分な広さがあり、明るく、柔らかな雰囲気 の居室である。個々に合わせて使い慣れた馴染みの家具 などが持ち込まれてあり、利用者が気持ちよく過せる 工夫がされている。</p>		